

28PA-pm254

在宅医および訪問看護師の在宅業務への意識および薬剤師への期待に関する調査研究

○柳本ひとみ¹, 櫻井秀彦¹, 古田精一¹, 黒澤菜穂子¹ (¹北海道薬大)

【目的】在宅医療は、医療、介護、福祉が連携し、患者の生活環境の中で行われる医療である。特に、薬物療法において薬剤師には、在宅医および訪問看護師との連携が極めて重要である。この2職種が持つ在宅業務への意識や現状の情報を得て、その差異を理解する事は連携を円滑にするために重要と考え、WEBアンケートを行った。【方法】(株)マーシュに登録済みの、在宅業務を過去に行ったか、または現在行っている在宅医および訪問看護師を抽出し、WEB調査を行った。質問は基本属性、在宅訪問業務で感じる負担感、在宅患者について評価するQOL項目、訪問薬剤師に期待する項目を尋ねた。回答は5段階リッカート式とした。2群間の比較をMann Whitney U検定で解析を行った。【結果】回収数は、在宅医120名、訪問看護師118名であった。「負担感」では、両群とも、高齢者や認知症患者の対応に負担を感じ、医師では「夜間/休日の対応」で有意に負担感が高く($p < 0.05$)、看護師では「複数の他職種との連携」($p < 0.01$)で高かった。「患者について評価するQOL項目」では、両群間で、各評価項目に有意差は見られなかった。「薬剤師に期待する項目」では、2群に共通して、「医師/看護師、双方に対して理解しやすい情報を提供する」、「薬剤師の訪問で患者に関する情報が増える」等であり、「患者が摂取しているサプリメントの管理」($p < 0.01$)「薬効を医師/看護師に説明する」($p < 0.01$)、「処方内容の見直しの必要性を医師/看護師に説明する」($p < 0.01$)について、看護師の期待が有意に高かった。【考察】結果から、薬剤師は今後、積極的に高齢者・認知症患者に関する知識を深め、対応するスキルを向上させ、2職種に対し情報提供を頻繁に行うという課題が明らかになった。総じて、訪問看護師から薬剤師への期待する項目が多いことから、薬剤師は連携強化も推進すべきである。